



学校の再開にあたって

校長 井上正裕

本日、ようやく全学年そろっての学校再開を迎えました。しかし、自宅療養や自宅待機をしている子どもたちや御家族がいらっしやいます。一日も早い快復、そして、日常生活が戻ることを心から願っております。

この度は、職員及び児童の複数に新型コロナウイルス感染症の陽性が確認され、大変な御心配をお掛けし申し訳なく思っております。新たな変異株の感染力の強さに驚くとともに、これまで続けて取り組んできた対策を省みて、緩みや隙はなかったか、真摯に向き合わなければならないと強く思っております。

保健所の対応が突然に変更となり戸惑いのある中、市教育委員会からの指導をいただき、対応を一つ一つ進めてまいりました。子どもたちの発症や検査結果の報告を受け、表面上は努めて冷静に対応を進めておりましたが、心の中では涙を拭いておりました。報告を聞くたびに胸が締め付けられるような思いでおりました。

なぜなら、子どもたちや御家族が心配であることに加えて、教育目標にも示した教育の根幹とも言える「かかわる」ことを、新たな変異株によって否定されてしまったように思われたからです。

今回、陽性が確認された職員は、人一倍よく子どもと遊び、活動をともにする職員でした。そこには、職員と子どもたちとの温かなかかわりがありました。

また、陽性が確認された子どもたちも、ともに学び、ともに活動する仲の良い間柄でした。学び合い、助け合う、温かなかかわりがそこにはあります。

今回のウイルスは、むごいことに、その温かなかかわりを利用して広がったのです。そこに理不尽さを感じるのは、私だけではないと思います。

このような、温かなかかわりを否定するウイルスに決して負けてはなりません。

人の心は、人の心と心とのかかわりの中でこそ磨かれ、人として育っていきます。

当校の校歌の一節に、「み親にうけこし玉なす心、千戴磨きて愈々明かし」と示されているようにです。

このような心と心のかかわりは教育の根幹に据えるべき大切なものです。温かなかかわりを絶ってしまうようなことがあってはならない。その思いを強くいたしました。

言うまでもありませんが、誹謗中傷などの差別や分断を助長するようなことは、決してあってはなりません。

当然のことながら、子どもの命と健康を守ることが、何よりも大切です。

感染症対策について、緩んでいる部分はなかったか、隙はなかったかを綿密に見直して改善していかねばなりません。

(裏面へ)

マスクの正しい着用の仕方、遊びや登下校での人との距離など、学校の新しい生活様式がきちんとできているかを、子どもたちや御家庭の皆様とともに、見直し、徹底を図ってまいります。

そして、対策を徹底し、その上で、大切にしたい温かなかわりを、どう取り戻していったらよいか、職員、子どもたち、御家庭の皆様、地域の皆様とともに考えていきたいと思うのです。

子どもたちの行く手が光に充ちているように、学校、家庭、地域が手を携えて、前に進んでいきたいと思えます。今後とも、御理解と御協力を何卒よろしくお願いいたします。